令和2年度

株式会社再創社

顧客のニーズに合った造粒設備導入によりさらなる バイオマス利活用に向けて



会社紹介

果樹にも効果的と地元周辺で高評価 品質はそのままに安定供給を目指す



堆肥業界では成果が出づらいとされる果樹において、みなべ町周辺では「葉っぱの発育がいい」や「古木でも実がついた」など、当社のペレット堆肥「りそうの肥料」が高評価を得ています。1年分の予約完売という状況からも、当製品は顧客ニーズに応えるものであり増産の声が高まっています。会社として売れる道筋をつけたことで、次は増産体制の確立。品質はそのままに、より早く安定的にお届けできる体制の構築を目指します。

株式会社再創社

代 表 者：代表取締役　西山孝三
設　　立：令和元年
資 本 金：600万円
従 業 員：3名
業　　種：リサイクル事業による有機質肥料の製造・販売

所 在 地：和歌山県日高郡みなべ町芝828-5
Ｔ Ｅ Ｌ：0739-33-7778
Ｆ Ａ Ｘ：0739-72-5374
Ｕ Ｒ Ｌ：Facebook▶株式会社 再創社

補助事業

資源を効率的に持続可能な形で循環させる社会 汚泥をリサイクルしてできる堆肥を地元農地に還元

近年、世界中で環境問題への取り組みが進められる中で、キーワードとなっているのが循環型社会への移行。限りある資源を効率的に活用し、持続可能な形で循環させながら利用していく社会。そのモデルケースの一つが「再創社」のリサイクル事業だ。もともと同社は、みなべ町内にある下水処理施設より発生した汚泥の処理コスト削減と、汚泥に含まれる窒素やりん等の成分を有効活用し、リサイクルしてできる堆肥（有機質肥料）を地元農地に還元する循環型社会の構築を目指して設立。令和2年3月には、汚泥堆肥化施設「みなべコンポストセンター」が完成し、周辺市町の下水道施設から発生する汚泥も含め、効率的な臭気対策が実施できる最新式の縦型密閉式発酵処理機を導入。有機肥料の製造・販売が本格的にスタートしている。

顧客はみなべ町周辺から田辺市、印南町と地元が中心。その７割以上が梅農家だという。今回、同補助事業を活用するに当たり、事前に農家の方々にリサーチ。聞き取り調査を実施したところ、ほとんどの農家でそれぞれ割合は違えど、ペレット化した堆肥を活用していた。理由としては、斜面が多く堆肥の利用が困難な場所でも、小分けにして持ち運びがしやすく、散布がしやすいこと。粒状であることから土にしっかりと絡み、流れにくく効果も長持ちするとの回答が得られた。ただ100%ペレット堆肥にできない最大な理由が価格。この結果により今後、同社の「りそうの肥料」を長期に使用してもらうためにも、造粒設備の導入は必要不可欠と考え、今回の補助事業を活用。重要課題である価格はもちろん、堆肥のペレット化を推進することで、新規顧客への展開もしやすくなり、梅だけでなくさまざまな種類の果樹や農作物に、幅広く使用してもらえると考えた。

成　　果

効率よく高品質なペレットに造粒加工 汚泥処分のシステム構築で低価を実現

同事業では、チヨダマシナリー製の「造粒機フラットダイ式プレスペレッター」を採用。肥料や飼料だけでなく、化学工業製品や産業廃棄物など広い分野に対応し、水分・油分・バインダーが入っている原料を効率よくペレット状に造粒加工する最新の機器。さらに現状で袋詰めを行っている建屋内に、同機器を設置することができ、既存の設備を一部改造するだけで備え付けることができたため、導入後すぐに製品化し、迅速に販売へと結び付けることができた。重要課題である価格は、有機肥料の原料となる下水汚泥の受け入れで解決。みなべ町など近隣自治体から仕入れる（受け入れる）ことで、処分費収入を得る流れをつくり、価値の高い製品を低価で多くの農地に還元。「りそうの肥料」価格は20kg入り250円。リピート率が高く、すでに令和６年の予約枠である生産の９割が完売状態になっている。



今後の展開

直接買い取りには値引きで優位性 増築と原料確保で生産力を高める

事業におけるターゲット顧客は地元の農業者であり、日本一の梅の生産地であるみなべ町では特に農業従事者が多く、新規の顧客獲得もしやすい地域。そこで直接買い取りに来た顧客には、20kg入り200円で販売中。お得感を出すことで他社より優位性をアピールしつつ、今後は製造ラインの増築と併せて、原料確保のためのエリア拡大と下水汚泥の枠組みを検討。地場産業である梅の加工業者から出てくる汚泥も視野に入れている。現在、有機肥料の原料となるための成分分析も完了。みなべ町の念願でもあった梅汚泥のリサイクルにも着手する予定だ。

